

私たちが腕と手になる

牧師 司祭 ステパノ 卓 志雄

練馬聖ガブリエル教会の創立 83 周年を迎えた今年の 11 月 17 日、第 133(定期)教区会が開催され「池袋聖公会、東京聖マルチン教会、練馬聖ガブリエル教会の三つの教会の合併を承認する件」が承認された。2019 年 1 月には新教会が生まれ、3 月には新しい名前になる。わたしたちの力だけではできなかった宣教のわざを池袋聖公会、東京聖マルチン教会と共に行うことを決心したのである。

教区会では様々な質問があった。戦後初めての教会合併という出来事に対して代議員の方々は非常に関心を持っていた。合併の議案が承認された後、わたしは代議員の皆さんに申し上げた。わたしたち 3 教会は「ファーストペンギン」であると。南極に住むペンギンは集団で行動する。ペンギンの群れの中から、天敵がいるかもしれない海へ、魚を求めて最初に飛びこむ 1 羽のペンギンのことを「ファーストペンギン」と言う。その「勇敢なペンギン」のように、リスクを恐れず初めてのことに挑戦するベンチャー精神の持ち主を、米国では敬意を込めて「ファーストペンギン」と呼ぶそうだ。海が怖くて飛び込まないでいると何も食べることができず死んでしまう。生きていくためにはリスクを恐れずに共に飛び込むのだ。

わたしたちは飛び込んだ。「安定的な礼拝を行い、祈りを捧げる」ために。また「地域の人々（となり人）に仕える」ために。3 教会が新しい共同体として一つとなって出発しようとしている。

わたしたちの営みをみて「やってもしょうがない」「うまく行くはずがない」「教会が遠くなって通わなくなる信徒が出る」「この教会で骨を埋めるつもりだったのに」「馴れ親しんでいた教会が無くなるから信徒が減る」・・・と言う人もいる。3 教会の営みは、組織の事務的な変化を求めるだけの営みではない。キリスト者の生き方の変化を求めた、心の、意識の、変革である。新しい教会共同体設立を推進していくことは、「共に集まり、共に心と手を合わせ」祈りを捧げながら、主がわたしたちの間におられることを感じ、信仰の原点を確認する作業に通じる。それぞれの信仰が問われる営みである。何のために教会に集まって、何のために礼拝を捧げるのか。それは多くの人々が聖卓を囲んで主によって養われ、養われた恵みをもって派遣されていき、主から与えられた恵みを隣り人と分かち合うためである。「排除」するための営みではなく、「共存」するための営みである。

そしてわたしたちの営みは「サバイバル」(survival : 生き残ること, 生存, 残存)のための営みではない。「リバイバル」(revival : 再生, 復興)のため、すなわち、信仰の原点へ戻るため、信仰復興のための営みである。しばらくの間、不安も、恐れも、

躊躇もあるだろう。また様々な問題もあるかもしれない。が、わたしたちが心配していることやわたしたちの乏しいところは神様が補ってくださることを信じる。そして 83 年間わたしたちに与えられた主のみ恵みに感謝を捧げる。2019 年からわたしたちは生まれ変わる。原点に還って皆さんと共により相応しい宣教を行い、礼拝を捧げていきたい。最後に今まで練馬聖ガブリエル教会を導いてくださった歴代牧師、管理牧師をはじめとする信仰の大先輩の方々および信徒の皆さんに感謝の気持ちを伝えたい。



左記の写真の「十字」架でもない変な十字架をみながら。わたしたちは腕と手のないイエス様の腕と手となってイエス様が行う愛と正義の業をイエス様の代わりに行なっていきますと。そしてわたしたちはイエス様の腕と手になって、周りの人の手をつないで腕を組んで一緒に歩いて行くと。そのために大きな変化を恐れていないと。

信仰とは、望んでいる事柄を確信し、見えない事実を確認することです。(ヘブライ人への手紙 11 : 1)

写真は「ドイツ シュヴァルツヴァルトの十字架」

旧練馬聖ガブリエル教会会報「しゅろの葉」第 177 号より